

労協連だより

新しい年度とともに、イラクでの人質事件がおき、今現在安否の確認もできない状態が続いている。この号が発刊されている頃には、朗報が届いていると思いたいが、21世紀の初頭が、期待や希望とは裏腹の分断・対立を加速させていることに、様々な憤りを感じる。この思いをどういった行動に結んでいけばいいのか。いくつかのやるべきことの中に、「協同労働」という事実を広げ、その理念的な輝きを強めることは、世界的にも大きな背負うべき我々の任務である。平和と人々の尊厳ある生活と労働をどう実現していくのか。その有力な手がかりの一つに、協同労働はしっかり位置づくると自覚を深めたい。

いよいよ記念すべき25回総会が近づき、議案作成も本格化している。4/15.16両日は、その第1次討議として全国の代表者が集い、会議が催された。特に、この1年の予想を大きく越える情勢の変化と豊かな経験を、しっかり次への行動と結ぶために、典型を教訓化し未来を共有化しなければならない。残念ながら労協連に集う組織の中で、この未来を手繰り寄せようとしている組織は、まだ少数である。地域や活動によって温度差があるのは当然であるが、なぜそうなったのかについて、真剣な評価がない限り、進むところは進むが、後退するところは一気に消滅する、そんな緊張感が問われている。

自治体の変化と、コミュニティビジネスを焦点にした地域・市民の胎動が、どこまでみんなが実感としてつかんでいるのか。東

古村伸宏（日本労協連・事務局長）
京の事態は特別、という思いを払拭し、この1年の普遍的な変化・成果を明らかにすることが、今度の議案の核心点だと思う。

地域や社会を人間的なものに再生していく、その主人公は紛れもなく、その地域に行き暮らす市民であり、その主人公は何によって主人公足りえるのか、ということ協同労働は示した。これがこの1年の実感だろう。

我々の仕事おこしは、前号にも記した大学での展開や自治体への新しい提案も経験しながら、いよいよ福祉全般、食、農、環境、教育へと、その垣根を取り払いながら前面化し始めている。その過程で、例えば大学の役割や自治体・公共施設の役割といった社会の制度を作り変えていく作業も伴い、小さな社会変革を積み重ねる経験をしている。その集大成が協同労働の協同組合法の制定と位置づけられる。ともあれ、今度の総会は、浅野宮城県知事の参加という新しい境地を拓き、内容もまた、仕事おこしの本格化を展望した、真剣勝負の幕開けを告げるものとなろう。続く秋の協同集会in長野は、日程の変更が条件ではあるが、田中長野県知事の参加が濃厚な事態を拓いている。

過去から積み上げた仕事が多様な形で減ったりしながらも、新しい分野・産業の仕事が増えるという、大きな構造変化が起こっていることも事実である。しかし、歴史を最大限守り発展させる中で、本物の組織と事業に近づいているという事実はゆるぎない。問題はこの事実を、確信として全ての

加盟組織、全ての組合員をはじめ、広く市民に広げる責務が、労協連と今度の総会にある。しっかり議案をあげ、千葉大学と八戸

でのコミュニティレストランの本格化を当面の具体的なテーマとし、実践の中から光、風を吹かせたい。

研究所たより 研究所たより

研究所の引越の後片付けがようやくひと段落し、通常の業務に戻りつつあるところです。研究所の周りには、小さな町工場や印刷工場があり、銭湯や牛乳屋、質屋、弁当屋、定食屋などが立ち並んでおり、東十条とはまた違った生活観のある雰囲気です。協同総研と同じ建物の2階(研究所は4階)には、「NPO たすけあいワーカーズひよこ」という、多くのケアワーカーを抱える事業所が、同じく3月に入居されており、引越のあいさつに伺ったところ、以前に協同総研主催のヘルパー講座を受講した方々が中心メンバーとして活躍されているということでした。全くの偶然で同じビルに入ることとなりましたが、今後交流をしていけたらと思います。

岡安専務が日本協同組合学会の常任理事となったこともあり、協同総研として学会のお手伝いをさせていただく機会が増えそうです。そのひとつとして、当面、日本協同組合学会のWebサイトの設置・運営に協力させていただくこととなりました。ドメインネームは、皆さんで相談して、coopstudies.jpということで申請し、4月1日に開設しましたので、学会員の方に限らず覗いていただければと思います。月1回程度の更新を行う予定です。(http://coopstudies.jp)

「協同集会 in ながの」が動き始めています。次頁の「実行委員会だより」をご参照いただきたいのですが、集會に田中康夫知事の

参加が実現しそうです。前回集會で千葉の堂本知事にいただいた「ごあいさつ」より、もう少し積極的な形で全体集會の企画に参加していただくことになると思います。知事の参加の実現に向けては、日程の変更など越えなければならぬハードルもありますが、より集會の目的が明確になり、内容が深まるような企画にしていけたらと、実行委員会で議論を重ねているところです。何より、史上最多になると思われる、分科会の企画内容をいかに豊かなものにできるかに、集會の成功がかかっているように思います。集會の準備状況につきましては、協同集會 Web サイト (<http://kyodo-net.roukyou.gr.jp/2004>)に掲載していきますので、会員の皆さんのご助言とご協力をお待ちしております。また、実行委員会事務局の原山さん(労協ながの)が掲示板と事務局日誌をマメに更新されていますので、ご覧下さい。

4/9(金)にシンポジウム「労働者によるタクシー経営とその発展方向」が開催されました。日本労協連専務の高野さんが長く追求してこられたワーカーズコープタクシーの運動をより広く全国に発展させるための第一段階ともいえるシンポジウムでした。2年前の規制緩和以降、相当数の新規参入が続いており、ワーカーズコープとしてタクシー経営する人たちが増えていく可能性を感じました。

菊地 謙